
ひとひら

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとひら

【コード】

N0840H

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

図書室でのボーイミーツガール。少女まんがちっくな物語。

私はいつも通り通学していた。

しかしその日はいつも通りでないことがあった。

通ridoの途中にあるコンビニで大変美しい人を見かけてしまった。

肌は象牙のように澄んだ白。

武士のように意思のこもっている眼。

黒髪は陽の光で天使の輪のように輝いている。

背は私より少し高い。

しばらく見とれてしまうほどの造形美。

型をとって像でも作れば、美術館に置けそうだ。

私の学校の制服を着ているということは、私と同じ学校なのだろう。どうして今まであんなに美しい人がいるのに気が付かなかったのだろう。

学校に着いて、早速友達にその美形の話をした。

「ああ。そいつね。確か隣のクラスの、森とかいう奴だよ。性格悪いらしいよ。」

性格が悪いのか……。どんな風に悪いのか気になるなあ。

「そんな事より、一時間目体育でしょ。早く着替えないと。」

「あつ！そうだった。忘れてた。」

「もうっ。しっかりしなよ。」

その日は何をやっても集中できなかった。

昼休み。図書委員の当番なので図書室のカウンターに座る。

カウンターの当番は私ともう一人いるのだが、そのもう一人はいつも当番を忘れていて来ない。

だからいつも私一人で対応している。

暇な時間が多いので誰か来るまで本を読む。

「本借りたいんですけど」

私が本から目を離すと、朝見た美男子がカウンター越しに立っていた。

「あ、お前。朝、俺の顔じつと見てただろ。」

あらまあ。気付かれていたらしい。

とりあえず貸し出し処理しながら返事を考える。

「ごめんなさい。あまりに、えっと、かつこよかったものですから。悪気は無いんです。」

そういつつ本を渡した。

え？見物料？初対面の人間いきなり金をねだってきたよ。

悪というより変な人だ。しかも憎たらしいまでに美しい笑顔だ。こやつ、手馴れておるぞ。

「私も貧しいので、それはちよつと・・・。」

「何だよ。せつかくブスの話し相手になってやったのに。やってらんねー。」

美形はむくれて帰っていった。ブスだなんてひどい事言っなあ。自分で言う分にはいいけど、人に言われると傷つくよ・・・。

絶対あいつ、友達いない。うん。きっとそうだ。

そんな風に自分を励ましていたら昼休みが終わってしまった。

インパクトのある会話をしたため、より一層、森とやらが気になっ
てしまうようになった。

もつと話してみたかったが、森はちつとも図書室に現れなかった。
そんなこんなで数日過ぎたある日。奴はまんまと現れた。

この前借りた本を返しに来たようだ。

森は、本を私の目の前に突き出してから、だるそうに

「返却。」

とだけ言った。

私は返却処理をして、読書続けた。

しばらくすると、森がカウンターにどすりと音をたてて本を置き「借りたいんですけど。」

と、ぶっきらぼうに言った。

つまらないセリフを吐いても美しいのだから憎い。

本を渡す時、私は秘密兵器を使った。

朝拾った一円玉を本に乗つけてプレゼントした。

「一円くれんの？俺の見物料はもっと高いんだけど。」
もつと払う気は無いが聞いてみた。

「いくらなんですか。」

「それは時価。でも一円はひどすぎるだろ。」

何だよ。せつかく拾った一円を与えてやったのに。
これじゃ、どぶに捨てたほうがましだ。

どうせだから森の顔をじーっと見て、元を取ろうとした。

「まあ一円分くらいのサービスをしてやるよ。そうだな・・・。」
私はまばたきもせず森を見つめた。これだからブスだと言われるのかもしれない。

「ありがと。」

森は微笑して言った。

今のが一円分なら、五円分で女なんかイチコロだろう。

私がぼんやりしている間に、森はあきれた顔をして去っていった。
でも笑っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0840h/>

ひとひら

2010年12月7日14時12分発行